

感染制御部

1. スタッフ

部長（兼）教授 朝野 和典

その他、病院教授 1 名、講師 1 名、助教 5 名、医員 3 名、薬剤師 3 名、副看護部長 1 名、看護師長 1 名、副看護師長 1 名、主任臨床検査技師 2 名、検査技師 1 名、臨床工学部門技士長 1 名、事務補佐員 1 名（兼任を含む。）

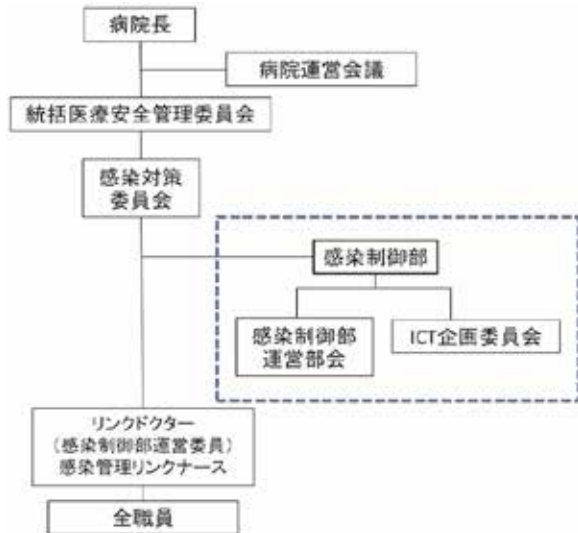
2. 活動内容

(1) 組織運営

当部は院内における職種や部署横断的な活動を行っており、院内感染アウトブレイク発生時などの緊急な対応が必要な場合には、診療への介入などの権限が必要であるために、病院長の直接の指示で活動できるように組織運営されている（組織図参照）。一方、日常の感染対策活動の方針決定に関しては、院内各部署の感染対策に関連するさまざまな職種の職員の意見と合意を得るために、毎月 ICT 企画委員会を招集して運営計画を策定している。ICT 企画委員会でまとめられた運営計画は、月 1 回開催される感染対策委員会における承認を経て実施される。このように、当部の活動は、迅速性と組織横断的な権限を有する一方で、院内各部署の合意や助言によって運営されている。

（組織図）

1) ICT 企画委員会メンバーの構成



医師 11 名、看護師 5 名、臨床検査技師 3 名、薬剤師 3 名、臨床工学技師 1 名、管理栄養士 1 名、事務職員 4 名、特任研究員 1 名、微生物学研究者 1 名

2) 感染対策委員会（ICC）メンバーの構成

病院長、感染制御部長、感染制御部副部長、感染症対策に関し相当の経験を有する医師等若干名、臨床検査部長又は副部長、薬剤部長又は副部長、看護部長、事務部長、その他病院長が必要と認めた者

(2) 院内活動

病院における感染対策には、予防と診断治療があり、予防を感染制御、診断治療を感染症診療と定義し、それぞれの職員が役割の分担と協力を行って、病院全体の感染対策を共通の方向性をもって推進している。

感染制御は、院内各部署における院内感染の改善に取り組み、耐性菌分離状況のサーベイランスを行い、耐性菌アウトブレイクの発生予防を推進している。

また、院内感染対策の重点部署においては病院関連感染サーベイランスを継続し、アウトブレイク予防のための早期発見、介入を行っている。

教育、啓発活動として、全職員対象の研修会をはじめ、新規採用職員、職種や部署別の研修会に加え、外注職員、院内学級職員、ボランティア等、院内で働く全ての人に対する研修会を行っている。

感染症診療は、感染症コンサルテーションを通じて、感染症診断・治療の質の向上、抗菌薬の適正使用、研修医の教育を行っている。

その他、職員の健康管理として、流行性ウイルス感染症（麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘）、インフルエンザ、B 型肝炎ワクチンの接種を推進している。また、針刺し等の体液曝露の発生動向調査と防止対策の実施も行っている。

大阪大学全体の感染対策にも参画し、本学安全衛生管理部の担当する流行性ウイルス感染症対策委員会の一員として、本学全体の感染対策にも寄与している。

(3) 地域活動

一昨年度実施した北摂地域における入院患者の CRE 保菌調査の結果から、既報を上回る保菌率（12%）であることが判明した。療養病床を多く持つ病院からの検出率が高かったため、感染予防策、検査体制の不十分な介護現場での CRE の蔓延を懸念し、高齢者施設の感染対策の支援活動を保健所と吹田地区の加算 I 取得病院と連携して実施している。

(4) 行政との連携

部長は、国の新型インフルエンザ等有識者会議の委員として、感染症専門家及び院内感染防止の観点から、感染症政策に関する現場の意見を提供している。

3. 活動体制

当部の専従職員には医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師がおり、各病棟、各診療科はもちろんのこと薬剤部、臨床検査部、事務部、栄養マネジメント部、臨床工学部、中央クオリティマネジメント部、手術部、材料部など様々な部門、部署と連携しながら、病院全体の感染対策を推進している。

地域医療としては、地域の感染対策を行っている医療

機関と連携し、医師、看護師などの職種ごとに研修や情報交換を行っている。平成 22 年度からは、大阪府吹田保健所管内院内感染対策連絡会議の中心メンバーとして、会議の立ち上げ、運営に参画している。平成 24 年度からは診療報酬の改定を受け、地域連携の強化として年 2 回の合同カンファレンスを開催し、吹田市内の 5 病院で相互訪問を実施し、高齢者施設の感染対策の支援活動を実施している。また、大阪脳神経外科病院と連携し、感染対策加算を取得している。

4. 活動実績

(1) 院内感染対策実施事項

- 1) 感染対策委員会 毎月開催
- 2) ICT 企画委員会 11 回(月 1 回: 8 月を除く) 開催
- 3) 院内感染対策教育
 - i) 院内感染対策講習会 2 回開催
 - ・当院における抗菌薬適正使用のしくみ(3127 人)
 - ・目から鱗の感染対策(3091 人)
 - ii) 部署別・対象別研修
 - a. 研修医イントロコース
 - ・抗菌薬の適正使用
 - ・院内感染対策
 - b. 看護部段階別研修
 - ・感染予防技術
 - c. 看護部 感染管理リンクナース会 担当
 - d. 各部署での研修会(研修医、手術部、臨床工学部、ICU 病棟、消化器外科病棟、看護部、医事課)
 - e. 業務委託業者(清掃、受付、メッセンジャー、洗浄員など)
- 4) 新規採用職員と全職員に対する HBV、麻疹、風疹、ムンプス、水痘の抗体検査と弱陽性、保留、陰性者へのワクチン接種
ワクチン接種: 当部で一括して実施

新人				
	陽性者	陽性 & 保留 & 弱陽性	接種者	接種率
B 肝	266	129	125	97.7%
麻疹	291	142	135	95.8%
風疹	304	129	125	96.9%
ムンプス	384	49	47	95.9%
水痘	389	44	41	93.2%
一般(医療職)				
	陽性者	陽性 & 保留 & 弱陽性	接種者	接種率
B 肝	2038	143	99	69.2%
一般(全職)				
	陽性者	陽性 & 保留 & 弱陽性	接種者	接種率
ムンプス	2151	178	130	73.0%
水痘	2102	228	175	77.2%
中途採用(医療職)				
	陽性者	陽性 & 保留 & 弱陽性	接種者	接種率
B 肝	24	26	23	88.5%
麻疹	29	21	19	90.5%
風疹	32	18	17	94.4%
ムンプス	45	5	5	100.0%
水痘	40	10	8	80.0%

中途採用(事務系)				
	陽性者	陽性 & 保留 & 弱陽性	接種者	接種率
麻疹	5	6	5	100.0%
風疹	5	6	5	83.3%
ムンプス	6	5	5	100.0%
水痘	10	1	1	100.0%

- 5) 職員及び希望者へのインフルエンザワクチン接種
職員 2,410 名、外注業者はインフルエンザワクチンの供給不足により接種を行わなかった。
*職員(ボランティア、院内学級教師などを含む)
外注業者(清掃、受付、メッセンジャーなど)
※リンクドクター、リンクナースの協力を得て、当部で一括して実施
 - 6) ICT Monthly 定期 12 回(月 1 回発行)
号外 1 回
 - 7) 院内イントラネットのホームページを充実
一部学外にオープン
 - 8) アウトブレイク防止の対応
 - i) 水痘対応 1 件、ムンプス 1 件
いずれも二次発症なし
 - ii) EKC 発生の対応 1 件
二次発症なし
 - 9) ラウンド: 週 1 回の環境ラウンドと随時の感染症ラウンドを行い、対策の改善点を提言している。
 - 10) サーベイランス
 - i) 耐性菌サーベイランス
MRSA の分離状況を、毎月病棟別にサーベイランスシートにまとめ配布している。
 - ii) VAE サーベイランスの実施
平成 29 年度より開始(ICU)
 - iii) UTI サーベイランス実施
平成 18 年 5 月から開始継続(高度救命救急センター)
 - iv) SSI サーベイランス実施
平成 26 年 8 月より、消化器外科と共同で実施
 - v) BSI サーベイランス実施
平成 30 年 4 月より西 10 階病棟、10 月より東 10 階病棟で実施
 - 11) 感染症コンサルテーション
コンサルテーション延数 597 症例
 - 12) 薬剤部と連携し、抗菌薬適正使用のためのデータ収集と、広域抗菌薬や抗 MRSA 抗菌薬の使用症例への介入を行っている。
- (2) 院外における感染対策支援活動
- 1) 院内感染対策改善支援
吹田市内 2 施設
大阪府内 1 施設
和歌山県内 1 施設
 - 2) 吹田保健所管内高齢者施設感染対策支援
施設訪問支援 4 件
感染対策リーダー育成支援研修会開催 3 回